

観光人材を育て振興

県は17日、「観光を学ぶ 観光で働く」と題した観光人材育成シンポジウムを静岡市駿河区のグランシップで開いた。県内の高校生から高齢者まで約200人が参加し、観光について理解を深めた。



観光人材育成などについて考えたシンポジウム
17日午後、静岡市駿河区のグランシップ

県が静岡でシンポ

学部新設の意義強調

立教大に日本の大学初となる観光学部を設立した同大の岡本伸之名誉教授を講師に招いた。学生時代にホテルの誘客戦略などを考える研究会に所属していたエピソードなどを話し、高校生らに観光の魅力を訴えた。

講演後は、県立大の鬼頭宏学長、静岡文化芸術大の横山俊夫学長、SACLABOの渡村マイ代表、ドルフィンキッズプロダクションの秋元健一社長の4人がパネルディスカッションを展開した。

県立大と静岡文化芸術大はそれぞれ来年4月から観光人材育成を目的に、既存の学部にな新しく観光のコースな

どを設ける。鬼頭学長は「観光においてマネジメントする能力を養える学習環境を整えた」と話し、横山学長は「伝統建築と観光を調和させた新たな価値の創造が必要」と述べ、観光人材を育成する意

義を話した。

渡村代表と秋元社長はそれぞれ主に藤枝市と浜松市で展開する地域おこしの内容を紹介し、観光産業で今後求められる人物像などについて思いを語った。(社会部・土屋祐人)